

平成 21 年度 第 2 回瀬戸市環境審議会議事録	
日 時	平成 21 年 10 月 20 日 (金) 午前 10 時 ~ 12 時
場 所	瀬戸市役所 4 階 大会議室
出席者	審議会委員 委員 13 名 (欠席 : 片委員、加藤委員、蔵治委員、河野委員、三輪委員)
	事務局 丹羽部長、加藤岩雄課長、高木主幹、山内課長補佐 加藤守幸環境保全係長、堀田、中村
次 第	内 容
1 開会	開会の挨拶 欠席委員の確認
2 挨拶	会長挨拶
3 議事	以下のとおり
議事(1)	環境基本計画策定の方針 (修正案) について
事務局	資料の確認 資料「第 2 次瀬戸市環境基本計画の策定について (環境基本計画策定の方針 (案))」に基づいて、内容説明を行なった。
会 長	・前回も同じ議題で議論しているが、環境パートナーシップ市民会議などについての意見が出たと思うが、そのあたりについて質問はあるか。
委員	・環境パートナーシップ市民会議はまだ出来ていないと思うが、これをどう作っていくかを説明してほしい。
事務局	・事業者パートナーシップ会議については、第 1 次の計画の見直し時の、ワーキングのメンバーを中心に会議を立ち上げ、環境配慮に関する事業に取り組んでもらっている。 ・市民パートナーシップ会議についても、ワーキングの市民メンバーをコアにして、年度内の設置を考えている。 ・2 次計画の関わりとしては、平成 22 年度初頭にでもたたき台をもとに、両会議にヒアリングを行ないたいと考えている。
会 長	・資料 P6 のところで口頭では説明があったが、個々の自治会全部というわけではないと思うが、自治会を通じて説明を行なうとしている。
委員	・我々には市民に対して説明責任がある。別件で「地域力向上プラン」を策定中であるが、その中にもこういった話が入るため、文章で説明できるような形にしてほしい。
委員	・市民パートナーシップ会議の役割は何か。
事務局	・第 1 次計画の推進が主な役割で、事業者会議にはこれまで通り、環境への配慮事業を推進してもらい、市民会議については、市民の立場として、できることを推進してもらって役割が主になる。また、その中で第 2 次計画についての意見も聞いていきたい。 ・第 1 次の見直しからできた事業で、今年度から立ち上げる「せと環境塾」などについても、市民会議から意見を聞いて事業を行っていきたい。これをきっかけに会議の設置をしていきたい。
委員	・ワーキングメンバーをコアにするとのことだが、それ以外の人も公募するのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・設置の段階では考えていない。ある程度、環境基本計画のことを知っている人や、各事業に関連のある民間の環境団体に声をかけ、まずは組織の基盤を作って、その後、公募などでメンバーをふやしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ、すすめてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報やホームページによる情報開示は大事だと思うが、どのタイミングでどのような内容を提供するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を見ると、計画や条例について知っている人が少ないため、計画がどんなものかや第2次計画をどうやってゆくのかわかっていただきたい。 ・アンケート結果についてもタイミングを見て公表する。 ・素案が煮詰まった段階で一度公表し、最終的には完全な基本計画案としてパブリックコメントをいただこうと考えているが、いきなり最終形の計画案を出すのではなく、段階を踏んで公表したいと考えている。ただ、全てを広報でというわけにはいかないの、様々な媒体を使って効果的な公表をしたいと考えている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会の内容については、承認いただければ公表されると思うし、アンケートについても要約版などを広報で公表するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面の量などにより、どこまでとはいえないが、何らかの形で公表する。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの対象者には、調査を行った側の責任として、結果を返したほうがよいと思われる。ぜひとも紙面を確保するよう努めてほしい。 ・では、策定の方針は承認することとして、事務局は広く市民にお知らせするよう進めてほしい。
議事(2)	第1次計画のフォローアップの報告について
	資料「数値指標の現状について(「環境指標の整理」参考資料)に基づいて、内容説明を行なった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状でおさえられる数字を示したが、これに関する感想や、こういう数値は出せないかなど、もっと違う視点などがあったら教えてほしい。 ・第1次計画の見直しの時にあげられているリーディングプロジェクト等のフォローアップ状況については、次回説明する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料P2の森林総面積が約100ha減っているが、その要因は分かるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の統計資料を整理したものであり、具体的に、どこが変わったかまではおさえていない。ここ10年では市の東部に東海環状自動車道ができるなどの変化はあるが、今後、可能な限り、分かるところはおさえたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P3の産廃の処分場面積についても、フェロシルトの関係もあると思うが減少している要因は。 ・県における産廃の処分分担率が60%と以上に多い印象を受ける。廃棄物を減らす努力をしていく中で、「瀬戸に捨てておけばいい」と言われているようで市民にとっては非常に困る話である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ10年間で埋め立てが完了しているものは面積から削除されるため、総面積・施設数は減少しているが、大規模な処分場の建設もあり、処分容積は増加している。 ・フェロシルトなどの不法投棄は処分場ではないため、カウントされていない。 ・なお、平成14年に定めた条例によって、産業廃棄物関連施設の設置には住民への周知・合意が義務付けられている。

委員	・埋め立てが終わった処理場は計上されないと言われたが、排水などの管理は引き続きやるのか。
事務局	・管理は行う。ここに出ている数値は県の公表値であり、終了届が提出されたり許可取消がされたりした場合には計上されなくなる。
委員	・市民の目線から見ると、埋め立てが終わった土地なども使えないので、これらも分かれば教えてほしい。
事務局	・分かる範囲で整理したいと思う。
委員	・人口の推移は。
事務局	・平成 15 年では 132,094 人、平成 21 年では 133,511 人と約 1,500 人増加しているが、ほぼ横ばいであると考えられる。
委員	・緑被率が重要だと思うが、緑被率のデータがないのはどういう理由か。
事務局	・別の部署が調査した緑のマスタープランの数字を載せてあり、担当課の回答としては、緑被率を算出するには再度調査が必要とのこと。
委員	・100ha も変わったのであれば、空中写真などを見れば分かると思うが、平成 10 年と最近の空中写真はありますか。
事務局	・近いものでは、平成 6 年と平成 17 年のものがあり、平成 6 年のもので一度、緑被率は算出したことはあるとのこと。
委員	・空中写真そのものは、そんなに高くなく買えると思うので、学生などを使って算出させることもできる。やはり 100ha という数字は大きいと思うので、何に変わったのかデータを作ったほうがよい。
事務局	・検討する。
委員	・資料 P10 の太陽光発電システムについて、規模は書いてあるが、実際の発電量はどれくらいが分かれば教えてほしい。その状況を見て、システムが良いものなのか、悪いものなのかの判断材料にもなると思う。
事務局	・発電量が把握できない施設もあるが、把握できる施設については、今後、データを提供したいと思う。
会長	・森林面積は何で算出しているか。地目か地域森林計画の対象森林か。
事務局	・地目でおさえている。
委員	・ゴミのリサイクル率の内容は。
事務局	・市民が出す全てのゴミが分母となり、ビン、カン、紙などの資源としてリサイクルに回ったものを分子として計算している。
会長	・ペットボトルなど大型店などに持ち込まれたものは除かれるのか。
事務局	・含まれていない。
委員	・フェロシルトについて、処分場面積に入っていないとのことであったが、民間施設で処理されているはずだが。
事務局	・不法投棄されたフェロシルトについては撤去し、最終処分されているが、フェロシルトのために処分場を作っているというわけではないので、数字上は表れてこない。
委員	・この数字だけでは、不法投棄されたものが処理されたということが市民には分からないと思うので、少なくともフェロシルトは処理されたということが分かる資料をつけてほしい。
事務局	・終了した最終処分場や、不法投棄がされていて土地として使用できないところなどについても分かる範囲で整理したいと思う。

会 長	・当初計画で盛り込まれた指標ではないが、現状の瀬戸市の問題を知るためには重要なデータであるため、分かる範囲で整理してほしい。
委員	・公用車は低公害車が増えたとのことであるが、全体の自動車保有台数も増えており、そのうちの低公害車がどのくらいあるかの分類はできないのか。
事務局	・ハイブリッド車かどうかなどの分類はできるので、次回はもう少し細かく分類した資料を示したい。
会 長	・前回計画の時の数値目標であり、今でも指標として有効であるかどうかなどを整理しながら、今回どのような指標にするかということを検討しなければいけない。
委員	・資料 P3 の一般廃棄物のリサイクル率であるが、市民が頑張っており、もう少し数字がいいはず。大型店への持込なども含めて、実態ベースの数字が出せるといいが。
会 長	・子ども会等の集団回収の数字は入っているということだが、大型店への持ち込みについても把握するよう検討してほしい。
会 長	・現計画の進捗状況としての指標を報告してもらったが、新しい計画に見直すときにどんな指標を入れたらいいのかというのが、これからの検討課題であり、本日以降でも、こんな指標があるなどの意見を聞いて、次回の計画に反映させたいと思う。
議事(3)	市民、事業者アンケートの実施結果の報告について
	資料「第2次瀬戸市環境基本計画市民アンケート結果概要」及び「同 事業者アンケート結果概要」(追加分含む)に基づいて、内容説明を行なった。
事務局	・このアンケート結果などを今後、2次計画にどのようにして盛り込んでいくかのアイデアを教えてください。
会 長	・いろんな設問があり、なかなか、すぐにアイデア、というわけにはいかないと思うので、意外だなと思うことなど何か感想があれば言ってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民資料 P10 の重要と思う環境問題について、ベスト1、2になっている「開発による自然環境の破壊」「地球規模の温暖化の進行」という項目は、第2次計画の取組みでも柱になるものだと思うが、若い世代も同じように考えているということは良いことだと思った。 ・市民資料 P24 の理想像についても、重要な柱になるであろう「豊かな自然と人が調和したまち」というのが一番にきており、若者もそう思っているということはいいことだと思う。今後、開発と自然環境との問題を基本計画でどのようにコントロールしていくかということが最重要課題になると思う。 ・市民資料 P26、27 の「馬ヶ城の浄水場」は水源の森とセットで考えるものであり、すばらしい生態系がある瀬戸の宝となる場所だと思うが、市民の知名度が低いのが残念。第2次計画でこれらの地位をどこまであげられるかが、ひとつの目標になってくると思う。

副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果と基本計画、フォローアップの数値目標がリンクしていないといけないと思う。アンケートにでてくる項目をうまく数値指標にして使えるようにし、重点的な目標として基本計画に盛り込むことが大事。 ・例えば「開発による自然環境の破壊」などに対しては、県のように生物保全地域の指定を増やすなどといった数値目標を計画に盛り込むとか、「自然とふれあう場」が重要ということであれば、自然公園の面積を増やすといった項目を盛り込んでいくといい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民資料 P10 の上位 3 番目ぐらいまでは市全体で取り組まないといけない。 ・市民資料 P19 からわかるように、市街地での自然環境に対する満足度が低いため、街中で人々が自然に触れ合える環境の充実などが重要な課題になってくると思う。 ・市民資料 P20 の都市・快適環境については、ほとんどの地域で満足度が低く、公共交通の問題などを詳しく検討してゆく必要があるのではないかと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代からの回答が多くてよかった。 ・内容については想像していたとおりで、快適な環境はあるが、生活としては住みにくいと思っている人が多いと感じた。 ・「開発による自然環境の破壊」という項目は、今後、私たちが瀬戸市に住みたい、住み続けたいと思えるかどうかの重要な項目になると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力向上プランにおいてもアンケートをやったが、自然については地域的に改善できないところもあり、住みやすいことは住みやすいが環境が悪いという回答も得ている。 ・地域の人々は「犯罪と災害」を常に心配しており、このあたりをどうするかも大事になってくる。 ・瀬戸川プロムナードの犬の散歩における糞害など、環境に関するマナーの問題が山積している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人がアンケートに答えてくれたことはいいと思うが、回収率が低いなど、環境に関する意識は低いのではないかと感じている。 ・ゆとり教育が見直されている中で、次世代のことを考えると環境教育がどのように取り組まれるかが今後重要になってくると思う。 ・事業者アンケートでも分かるように環境に対する意識はあっても、10人以下の小さな事業所では具体的にどのような取り組みが分らないところも出てくると思うが、これらを市としてどのように指導していくかが重要になってくると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨て防止運動というのをやっているが、こういうことにも積極的に関わってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・経済状況が悪い中で、CSR や地域との共同などいろいろな取り組みをしたくても、やり方がわからないとか、方法がわからないといった事業者向けに、相談や情報提供をしてもらえるような場所を作ってもらえるといいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者資料 P11 の一番下にあるように、ISO の取得には、法規制などを熟知する必要があり、中小企業が多い瀬戸では難しい。瀬戸の実態に合った環境マネジメントが作れるような支援が大切になってくると思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後 10 年を考えた時、企業の社会的責任に関する ISO 26000 も大きな話題になってくると思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民資料 P10 で、「開発による自然環境の破壊」が重要な問題であるという意見が多く、市街地の人もそう考えているということが分かってよかった。 ・環境シンボルについて、オオサンショウウオやその他の生物、またそれらのすむ場所を挙げる回答が多いのも良いと思うが、そういった生物も現在、環境の改変やゴミの不法投棄などで、安穩とすんでいるわけではないということを市民の皆さんに知ってもらうことも大切だと思う。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸市の抱える課題を市民と共有してゆくことは大切だと思う。 ・アンケート結果に基づいて、計画にも盛り込んでいくということだが、意見をいただく期間を設けて、必要により、市からヒアリングに行くというのでどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアがいただくことが、素案づくりの足がかりになると思うので、機会を設けながら、いろんなアイデアを吸収させていただく。
議事(4)	その他
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい産廃処理場の計画があると思うが、環境審議会としても重大な関心を持つべき事案だと思う。そのための情報提供は随時してほしい。 ・これに関する環境アセスはやるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の条例に基づいて生活環境アセスの添付が義務付けられている。また、現在、手続き等が進められており、次回の会議では具体的な事業計画についても報告させていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アセスを進めていく上では、市民が意見を述べる機会があると思うので、審議会としてもなんらかの意見をいうこともあり得ると思う。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の予定はどうなっているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・近日中に日時を決定してお知らせしたい。
4 閉会	閉会の挨拶